

経営体の概要

- ・所在地:茨城県八千代町
- ・経営体名:平塚ライスセンター
- ・栽培作物・作付面積:水稻60ha・麦15ha・トマト3a
- ・従業員数:3名(令和5年7月現在)

導入経緯

- 年々増加する圃場面積や受託作業により、管理状況の把握が紙ベースでは困難になりつつあった。
- このため、圃場管理状況を的確に把握する目的で、2012年にKSASシステムを導入した。

導入技術

- ・K S A S ((株)クボタ製)
圃場管理システム、食味・収量コンバイン、乾燥システム
- ・ドローン(マルチスペクトルカメラ搭載)
生育マップに基づく無人ヘリによる可変追肥(試験運用)

取組の特徴・効果

- 収量・水分・タンパク質含有率を圃場毎に数値で確認可能。圃場によって異なる品質を、タンパク質含有率による仕分け乾燥で差別化。
→ 自信を持って「おいしいお米」をお客様に届けることが可能となった。
- 蓄積された過去からの圃場毎の収量推移データから、土壌改良の効果を確認。圃場毎の施肥設計を見直し、収量・食味の改善が可能となった。
→ 目標としている収量・食味を達成した圃場数が増加。平均収量は30kg/10a UP。
- 試験的にドローンの空撮画像から生育マップを作成、可変追肥により生育ムラの解消に努めている。
- 現在では、KSASは必要不可欠の営農ツールとなっている。今後は食味を考慮しながら平均収量540kg/10aを目指すとともに、販路開拓に取り組み、水稻100ha規模の営農を目指す。

- 圃場毎の籾水分・タンパク含有率を数値で確認
水分やタンパクによる仕分け乾燥
↓
乾燥の効率化・お米の差別化
↓
圃場毎のデータ蓄積
↓
データ分析・圃場改善
- 収量・食味(タンパク)の改善

○ドローンで取得した生育マップ(試験運用)

